

中国四国教育学会第 75 回大会報告

中国四国教育学会事務局

〒739-8524 東広島市鏡山 1-1-1

広島大学大学院人間社会科学研究科教育学コース内

cssse@hiroshima-u.ac.jp

2023年11月25日（土）、26日（日）の両日、広島大学を大会会場に中国四国教育学会第75回大会を対面形式にて開催することができました。ご参加いただいた多くの会員の皆様にお礼を申し上げるとともに、会場校をお引き受けいただいた大会実行委員会委員長の木下博義先生をはじめ、実行委員の先生方、そして実務的に大会を支えていただいた院生や学生の皆様に深く感謝申し上げます。また、広島大学教育学部長の松見法男先生には、総会にて学会を励ましていただきご挨拶をいただきました。あらためて感謝申し上げます。

今大会は、深澤広明前会長からバトンを引き継いで、今年度からスタートした新学会事務局体制（三年間）の一年目の大会でした。大会前日の24日（金）に開催した理事会では、本学会の今後の課題について議論を行いました。直近の課題は今年度から運用開始した会員管理システム「シクミネット」を定着させることですが、『教育学研究紀要（CD-ROM版）』のオープン・アクセス化、持続可能な学会運営のあり方（学会事務局の体制、会場校の負担軽減など）、会員減少傾向への対応（資格維持のメリットなど）他、本学会の存在価値にかかわる重要な課題があらためて浮かび上がってまいりました。今後、これらの課題に向き合う所存です。会員皆様のお考えを是非ともお聞かせください。

25日と26日には、20部会で131件（7件辞退を含む）の自由研究発表が行われました。また大会校企画の公開シンポジウムと4件のラウンドテーブルもあわせて実施され、2日間で正会員201名、臨時会員59名と多くの参加者をえて盛大な研究大会となりました。大会1日目の午後に開催されたシンポジウムには会場に92名のご参加をいただきました。話題提供者として岡花祈一郎先生（琉球大学）、原田大介先生（関西学院大学）には広島大学まで足を運んでいただき、大会校からは山崎茜先生（広島大学）にご登壇いただき、貴重な提案をいただきました。さらに指定討論者であるデラコルダ川島・ティンカ先生（広島大学）、朝倉淳先生（広島大学（名誉教授））のご発議をいただき活発な論議で学会の研究活動を刺激していただきました。あらためて感謝申し上げます。

その後の総会において、次年度2024年の第76回大会は岡山大学を会場として開催されることになりました。会場校を代表して尾島卓先生よりご挨拶いただき、11月23日・24日を候補に開催されることが報告されました。

次の大会も本年度と同様に充実した大会になることを祈念するとともに、大会会場にて皆様とお会いできることを心待ちにしております。

【会長・丸山恭司】

○自由研究発表・シンポジウム・ラウンドテーブル

大会 2 日間を通して、計 20 部会で 131 件（取消 7 件を含む）の自由研究発表が行われ、各部会において活発な議論が交わされました。

大会 1 日目の午後に設けられたシンポジウムは、92 名の参加者がありました。司会の米沢崇氏（広島大学）、渡邊巧氏（広島大学）により趣旨説明がなされた後、話題提供者である岡花祈一郎氏（琉球大学）、原田大介氏（関西学院大学）、山崎茜氏（広島大学）より、「多様であることが承認される保育の成立条件」（岡花氏）、「国語科教育のインクルーシブ化を考える」（原田氏）、「子どもの多様性を包摂し発達を支える包括的生徒指導・教育相談」（山崎氏）をテーマに発表がなされました。

続けてデラコルダ川島・ティンカ氏（広島大学）、朝倉淳氏（広島大学（名誉教授））より指定討論を受けて、司会者・提案者を交えて議論を行いました。

大会 2 日目の午後には、4 件のラウンドテーブルが開催されました。

○理事会・総会報告

理事会は、大会前日の 11 月 24 日（金）18 時から広島大学教育学部第一会議室にてハイブリッド形式で開催され、役員 9 名と次期大会校実行委員 1 名、編集委員会幹事 1 名、事務局幹事 4 名が出席し、総会に提出する事項についての審議等が行われました。

総会は、大会 1 日目に開催されました。教育学部松見法男先生よりご挨拶をいただいた後、議長団（岡村美由規氏<広島大学>、吉田茂孝氏<大阪教育大学>）による進行のもとで、事務局から各種報告が行われました。続いて 2022 年度決算報告・会計監査報告、2023 年度予算案・中間決算報告、次年度大会校についての審議がなされ、全て原案通りに承認されました。総会の進行は以下のとおりです。

中国四国教育学会・総会

1.	大会校 学部長挨拶	(広島大学教育学部長	松見 法男)
2.	会長挨拶	(会 長	丸山 恭司)
3.	大会校挨拶	(実行委員長	木下 博義)
4.	議長団選出	(事務局長	曾余田浩史)
5.	報告事項		
	(1) 事業・会議報告	(事務局長	曾余田浩史)
	(2) 研究推進事業報告	(事務局長	曾余田浩史)
	(3) 編集委員会報告	(編集幹事	滝沢 潤)
6.	審議事項		
	(1) 2022 年度決算報告・会計監査報告	(事務局長	曾余田浩史)
		(監 査	班 婷)
	(2) 2023 年度予算・中間決算報告	(事務局長	曾余田浩史)
	(3) 次年度大会開催校および副会長・役員の交代	(会 長	丸山 恭司)
	(4) その他		

○次年度大会のお知らせ

次年度の第 76 回大会は、令和 6 年 11 月 23 日・24 日に岡山大学を会場として開催される予定です。詳細は年度明けにご案内します。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

2022年度決算報告

(事務局幹事 掛江真弓)

2022年4月1日～2023年3月31日

《前年度繰越金》

8,269,389

《収入》

項目	予算	決算	決算-予算
学会費	3,555,000	3,350,000	▲ 205,000
内訳： 2022年度 (5,000円)	545名： 2,725,000	569名： 2,845,000	120,000
2023年度以降 (5,000円)	96名： 480,000	26名： 130,000	▲ 350,000
過年度 (5,000円)	70名： 350,000	75名： 375,000	25,000
『教育学研究紀要』(CD-ROM版) 掲載費	530,000	540,000	10,000
内訳：個人研究(5,000円)	89件： 445,000	90件： 450,000	
共同研究(5000円)	17件： 85,000	18件： 90,000	
その他収入	6,850	478,463	471,613
内訳： 預金利子	50	73	23
CD-ROM・ジャーナル売上	6,800	13,390	6,590
大会参加費		402,000	402,000
大会補助金(日本教育大学協会補助金)		30,000	30,000
上記以外		33,000	33,000
収入合計	4,091,850	4,368,463	276,613
収入(繰越金含む)	12,361,239	12,637,852	276,613

《支出》

項目	予算	決算	予算-決算
第74回大会経費	700,000	627,699	72,301
内訳： 会場校補助金	260,000	260,000	0
会場使用料	100,000	109,600	▲ 9,600
プログラム印刷費	160,000	163,625	▲ 3,625
シンポジウム要旨集印刷費	60,000	69,300	▲ 9,300
会議費	120,000	25,174	94,826
『教育学研究ジャーナル』刊行費	920,000	919,837	163
内訳： 印刷・J-STAGE掲載経費	670,000	682,924	▲ 12,924
会議費	20,000	0	20,000
編集作業人件費	30,000	19,113	10,887
委託費(査読サポート運用)	200,000	217,800	17,800
『教育学研究紀要』(CD-ROM版) 刊行費	465,820	521,500	▲ 55,680
内訳： CD-ROM制作費	364,000	401,500	▲ 37,500
冊子体制作費	5,820	0	5,820
編集・校正作業人件費	96,000	120,000	▲ 24,000
研究推進費	300,000	500,000	▲ 200,000
内訳：「課題研究」助成金(100,000円/件)	3件： 300,000	5件： 500,000	▲ 200,000
ラウンドテーブル・会議費			0
事務局会議費(理事会、事務局会議等)	100,000	20,100	79,900
事務局旅費	42,480	56,210	▲ 13,730
封筒印刷費	33,000	62,370	▲ 29,370
通信発送費	300,000	294,772	5,228
会長選挙実施関連経費	50,000	108,527	58,527
振込手数料負担金	98,000	113,354	▲ 15,354
事務局人件費(含源泉徴収税、労災保険料)	992,550	780,222	212,328
消耗品費	40,000	37,175	2,825
予備費	50,000	482,992	▲ 432,992
内訳： 大会参加費・教大教補助金の大会校への送金		432,000	
事務局からの銀行振り込み手数料、その他	50,000	50,992	
支出合計	4,091,850	4,524,758	▲ 432,908

【次年度繰越金】

収入 - 支出 = 12,637,852 - 4,524,758 = 8,113,094 (次年度繰越金)

純収入 - 純支出 = 4,368,463 - 4,524,758 = ▲ 156,295 (純利益)

寄 贈 図 書

(2022.12.01～2023.11.30)

○図書

- ・宮本勇一会員（岡山大学）より寄贈
宮本勇一『フンボルトの陶冶理論と教育改革——学問中心カリキュラムの再考』春風社、
2023年3月
- ・北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター様より寄贈
北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター 監修 『学校力が向上する遠隔合同
授業——徳之島町から学ぶへき地・離島教育の魅力』教育出版、2023年3月
- ・中西さやか会員（佛教大学）より寄贈
中西さやか『ドイツの幼児教育におけるビルドゥング——子どもにとっての学びを問い
直す』春風社、2023年3月

○紀要・ニュースレターなど

- ・『東北教育学会研究紀要』第26号、東北教育学会、2023年3月5日
- ・『中部教育学会紀要』第23号、中部教育学会、2023年6月30日
- ・『関西教育学会研究紀要』第23号、関西教育学会、2023年8月31日